



調査の背景



札幌市博物館活動センター（以下、当センター）では、2001年の開設以来21年間にわたり、コツコツと標本を集めてきました。しかし、将来的な展示や調査研究を考えると、まだ不足している重要な種類があります。その1つが絶滅危惧種に類する植物です。

調査を始める前に、過去の文献や標本を調べてみると、中には数十年も専門家による調査が行われていなかったり、信頼できる情報がなかったりする種しゅもありました。そこで、札幌の自然の現状を記録し、将来に伝えるためにも、2016年から当センター独自に「札幌の希少植物現地調査」を始めました。

同じタイミングで「札幌市版レッドリスト」（札幌市環境局）が公開されました。これは札幌市内の絶滅のリスクが高い生物の“名簿”のようなものです。そのため、当センターの調査対象種を選ぶときの1つの目安としました。



札幌市の花スズランもレッドリストに入っています。2018年、2019年には環境局の生物多様性を担当する職員と一緒にスズランの調査もしました。

結果は、スズランの植物画のところで紹介しています。

